

平成25年度 事業報告書

平成25年 4月 1日

事業年度

平成26年 3月31日

一般社団法人システム科学研究所

平成25年度 事業報告書

自)平成25年4月1日

至)平成26年3月31日

1. 概要

本研究所の経営基盤である調査研究事業の収入は予算額とほぼ等しい5億円を確保できた。

調査研究事業の発注元の割合は、平成24年度と同様に、「国」が約4割、「自治体」が約3割、「民間・その他」が約3割のシェアとなった。

受託研究を分野別に見ると、交通政策分野が95.4%と大部分を占めており、その他は地域・都市政策及び地域活性化政策分野が3.7%で続いている。

一方、調査研究・技術開発事業（自主研究事業）については、調査研究事業の中心である交通分野等における最近の課題に対応するため「ツイッター情報を活用した道路評価に関する研究」「簡易交通量観測機器の開発及び実務への適用性に関する研究」「ブログテキストの分析による交通行動の意識調査に関する研究」「ネットワーク脆弱性分析に関する研究」「交通経済分析に関する研究」といったテーマを取り上げた。

また、地域情報化推進事業については、恒例の情報化月間行事として、学識経験者、行政の方々を講師に招き、「健康とまちづくり～日々の暮らしの^{まち}舞台と健康の新たな関係を考える～」と題して、健康に配慮した今後のまちづくりを実現することにより、高齢社会における人々の幸せを支える地域創出に資するシンポジウムを開催した。

2. 事業

(1) 調査研究・技術開発事業

①「ツイッター情報を活用した道路評価に関する研究」

ツイッター情報による道路利用者の評価分析の可能性を探るため、交差点改良事業の開通を例として、事業に関連するツイッター情報を収集し、その内容の基礎的な分析を試みた。

その結果、道路開通や整備効果に関する新聞記事の掲載等のイベント発生時にツイート数が増加する傾向や開通前後における事業に対する評価の変化を捉えることができた。

このため、道路利用者の率直な意見を把握出来るツイート情報を活用することにより、より効果的な事業の広報や開通後の対応策検討にも期待ができる。

1. 本研究の概要

(1) 道路開通によるツイート（つぶやき情報）の変化

分析の対象とした道路事業は、平成25年2月23日に開通した国道9号・千代原口交差点立体交差である。収集したツイートは、当該事業の交差点名である「千代原口」を含むツイートであり、Twitter APIを利用したプログラムにより収集を行った。

収集期間は、平成 25 年 1 月 1 日～5 月 27 日の約 5 ヶ月であり、収集した 1,371 ツイートのうち、内容が重複するリツイート等を除いた 1,166 ツイートを対象として分析を行った。

日別のツイート数を図示したものが以下の図であるが、ツイート数が最も多いのは、開通日であり、開通前では、開通日に関する新聞記事の掲載時にツイート数の増加が見られる。

また、開通後では、当該事業の効果に関する新聞記事掲載時や周辺道路（京都縦貫自動車道（沓掛～大山崎間））の開通日にツイート数の増加が見られる。

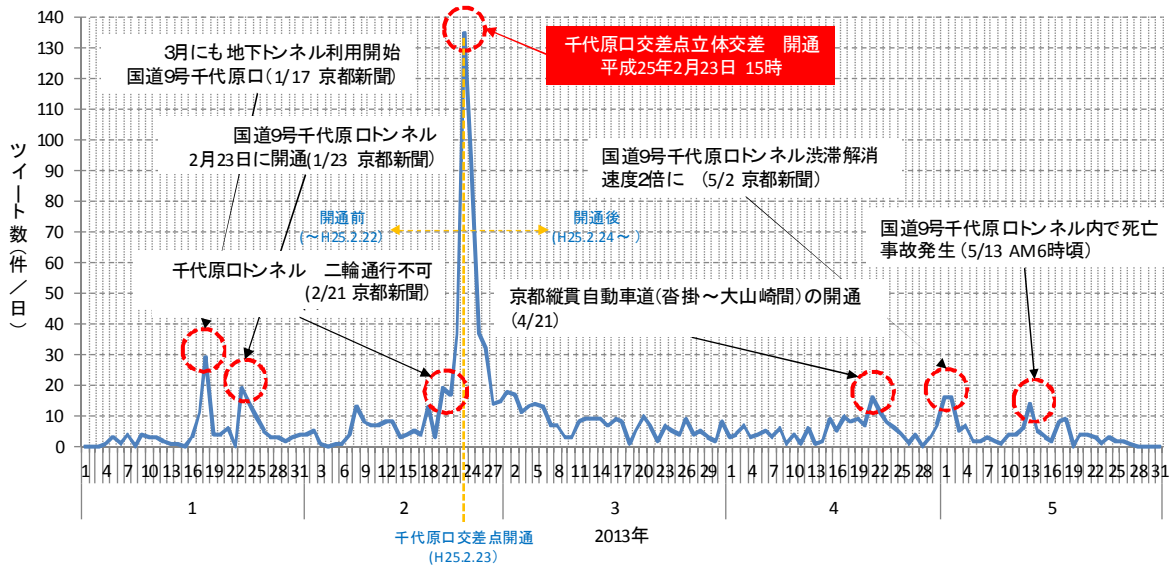


図 キーワード「千代原口」に関するツイート数の日変動

(2) ネガティブ・ポジティブツイートの推移

次に、ツイート内容を、「ネガティブ」、「ポジティブ」、「その他」の3つのカテゴリーに分類して、開通前後におけるツイート内容の変化傾向を捉えた。

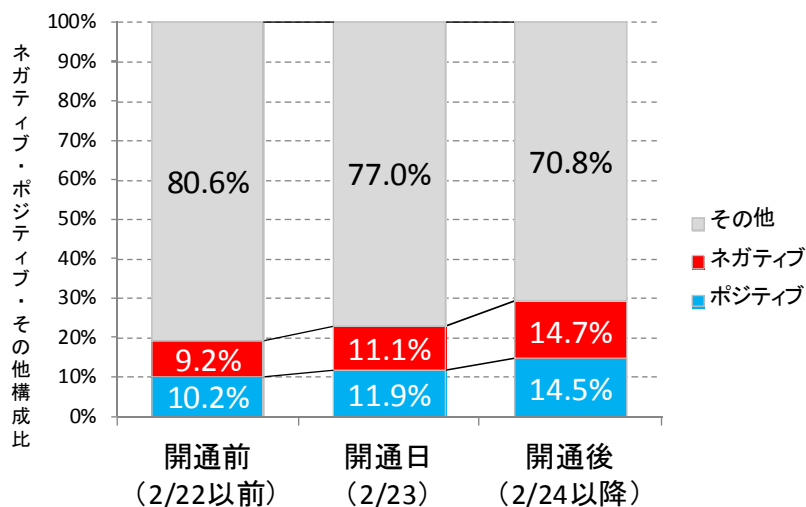


図 千代原口に関連するツイートのネガポジ構成の推移

ここでは、交通渋滞や通行規制に対する不満等に関するツイートを「ネガティブ」、利便性向上に対する評価や期待等に関するツイートを「ポジティブ」、その他の道路の開通情報等に関するツイートを「その他」とした。

ネガティブ、ポジティブの構成比は、開通前後でも概ね同じであるが、開通後、その割合が大きくなっているのがわかる。これは、開通後、実際に当該区間を利用することにより、事業に対する評価がしやすくなったためと考えられる。

②「簡易交通量観測機器の開発及び実務への適用性に関する研究」

a) 研究の目的

交通量調査は、人手観測に頼ることが多く、そのやり方は長年余り変わっていない。交通計画等における基礎資料として、その重要性は今後も不変と考えられ、調査コストの削減や調査スケジュールの短縮による調査の効率性向上が必要と考えられる。

本研究では、人手による交通量調査の代わりとなる調査手法として、ビデオカメラを用いて撮影した画像を入力データとする画像解析による交通量計測を取り上げ、高精度かつ低コストの調査システムの構築に向けての調査研究を行うことを目的とする。

b) 研究の成果

i) 人手調査との精度比較

日の出・朝ピーク・昼間オフピーク・日没・夜間の各時間帯について、(1)本研究開発のビデオ画像解析による交通量調査、(2)路肩での調査員による人手調査、(3)ビデオ画像を人手で計測（基準値と呼ぶ）の3方法で交通量調査を実施し、その結果の比較を行った。

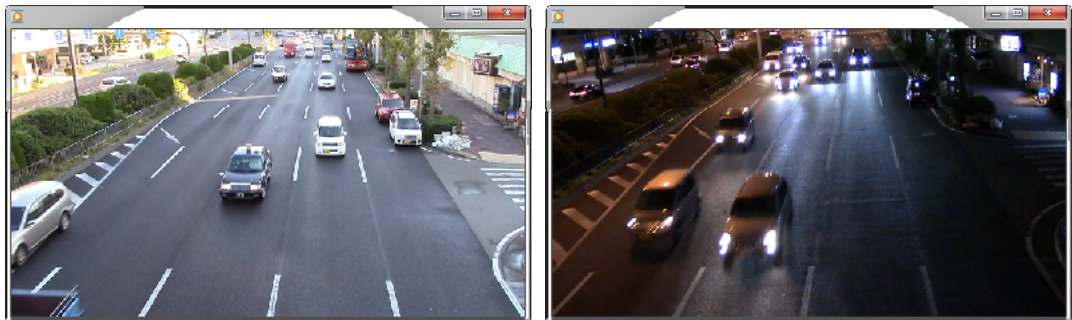


図 撮影したビデオ画像の例（国道2号生田川交差点）

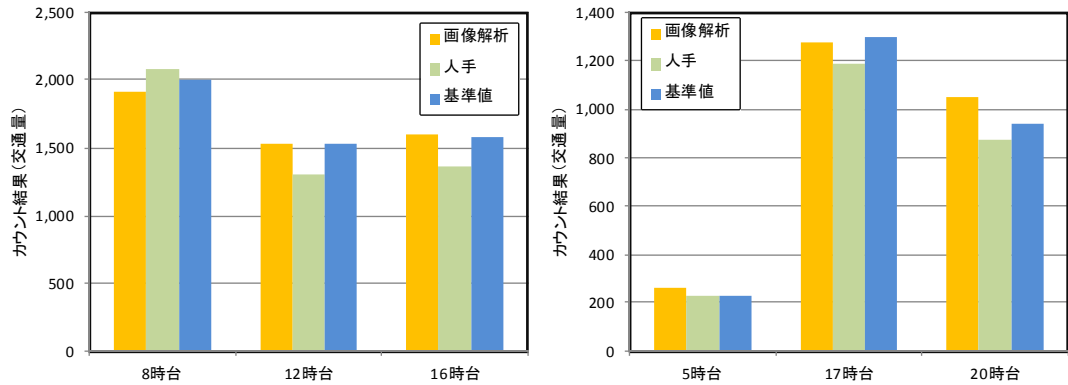


図 交通量計測結果の比較

その結果、画像解析による交通量調査について、以下のことがわかった。

- 計測精度は、昼間も夜間も人手調査と遜色がない。また、人手調査に不可欠のアナログな記録（野帳等）が不要なため、大幅な工期短縮が可能である。
- 渋滞による車両のつながり、ヘッドライト点灯車両と非点灯車両の混在、濡れた路面からの反射光等によって計測精度が低下する。

ii) 画像解析による交通量調査の実用性向上に向けての検討

画像解析による交通量調査の実用化に向けての課題を以下のように整理した。

- 日照条件に対する頑健性の向上：車両でないもの（影・反射光など）と車両を区別する際の条件を精緻化し、画像解析プログラムに組み込むことを検討する。
- 車種を考慮したカウントの実現：車両の大きさ等を加味してカウントする。
- 渋滞等で“つながっている”車両の区別：色・大きさ等を考慮した車両の分割方法について検討する。その際、a) b)の成果が活用できると考えられる。
- 車両の移動方向を考慮したカウントの実現：現在のカウント手法は断面交通量調査に相当するものである。カウント方法の変更等による方向別交通量のカウントを可能にする解析システムについて検討する。
- カメラ設置方法のマニュアル化：画像解析に使いやすいビデオ画像の撮影条件を整理したマニュアルを作成する。

最後に、本研究は、以下の二社と共同で実施したことを付記しておく。

- 株式会社シンクチューブ : 画像解析ソフトウェアの実行等に関する協力
- 阪神高速技研株式会社 : 交通量調査のフィールド提供等

③ 「ブログテキストの分析による交通行動の意識調査に関する研究」

本研究は、交通行動に関するテキストデータから交通行動の意識を捉えることを試みることで、満足度の向上や行動分析、Subjective Wellbeing等の問題に貢献することをねらいと

するものである。近年では、blog 等の、個々人が率直な気持ちを記述したデータが大量に生まれてきている。交通行動に関しても、そのようなテキストデータには書き手の率直な意識や感情が含まれていることが期待できる。そこで、本研究では、関西空港の利用行動に着目し、それに関して記述されたブログテキストから、利用行動に関する意識をマイニングすることを試みた。

本年度は、昨年度に引き続き、関西空港の利用行動に関するブログテキストの砕けた表記の処理方法を論文発表した際の査読意見をもとに、論文内容を加筆修正した。投稿論文は、土木学会論文集D3（土木計画学），Vol.69, No.5に採録された（論文名「関西空港の利用行動に関するブログテキストの砕けた表記の分析と形態素辞書の補充」）。従来の形態素解析システムは、十分に校正のなされたフォーマルなテキストに基づいて開発されている場合が多く、ブログのような砕けたテキストに対しては必ずしも良好な性能を発揮しないため、本論文では砕けた表記を既存の形態素辞書に補充した。

砕けた表記の例

分類	形態素辞書（MeCab）に収録済	本研究で補充した砕けた表記
カタカナ化（語全体）	かわいい	カワイイ
カタカナ化（語幹のみ）	やばい	ヤバい
長音の挿入（形容詞語尾先頭）	長い	長ーい
促音の挿入（2音目）	すごい	すっごい
引き音母音の長音化	きれい	きれー

さらに、ヒトの意識を解析するためにはブログテキスト中に記述された語の意味を知る必要があるが、本年度では、シソーラス辞書を参照することを試みた。ところが、形態素辞書とシソーラス辞書とでは表記の違いがあるため、単純な照合では必ずしもうまくいかないことがわかった。そこで、両者の収録語の表記の違いを比較検討し、分類整理した結果、次の表のような分類が得られた。今後、このような表記の違いをシステムティックに処理することを目指し、具体的な技術開発を次年度に引き続いて取り組む予定である。

収録語の表記の違いの例

分類	形態素辞書（MeCab）	シソーラス辞書（角川類語新辞典）
部分的に漢字・全部ひらがな or 極力漢字	久しぶり	ひさしぶり, 久し振り
漢字の異表記	上手い	巧い
省略形・語源	バイク	モーターバイク
複合語	チェックインカウンター	カウンター
品詞の違い	待ち合わせ	待ち合わせる

④「ネットワーク脆弱性分析に関する研究」

本調査研究は、災害時において接続性が大きく低下する拠点や、途絶によって拠点間の接続性を大きく低下させ得る道路を特定・評価し、防災等施策に資すると期待される「ネットワーク脆弱性分析」について、分析手法の研究、実務への適用を図るものであり、過年度より継続して進めているものである。本年度は主に以下の検討を実施した。

ア) 脆弱性評価指標の検討

昨年度採用したリンク重要度指標 LCI (Link Criticality Index) について見直しを行った。従来のリンクが途絶することによる非重複経路数の減少率を全 OD ペア間で足し合わせる式では、当該リンクが非重複経路に含まれる OD ペア数が多いほど LCI 値は高くなる。しかし OD ペア数が多くても、それぞれの OD ペアにおける非重複経路の減少率が低ければ重要度は低いと考えられ、より重要度が高いのは減少率が高いリンクであるため、上述の式を非重複経路が減少する OD ペア数で除して平均化することにより、減少率がより高いリンクの LCI 値が相対的に高くなるような指標とした。

【本研究で採用した LCI 式】

$$LCI_a = \frac{\sum_{rs} (1 - \frac{\text{リンク a 途絶後の } n_{rs}}{\text{リンク a 途絶前の } n_{rs}})}{W}$$

n_{rs} : OD ペア rs 間の非重複経路数
 W : リンク a が非重複経路の構成リンクとして選ばれる OD ペアの数

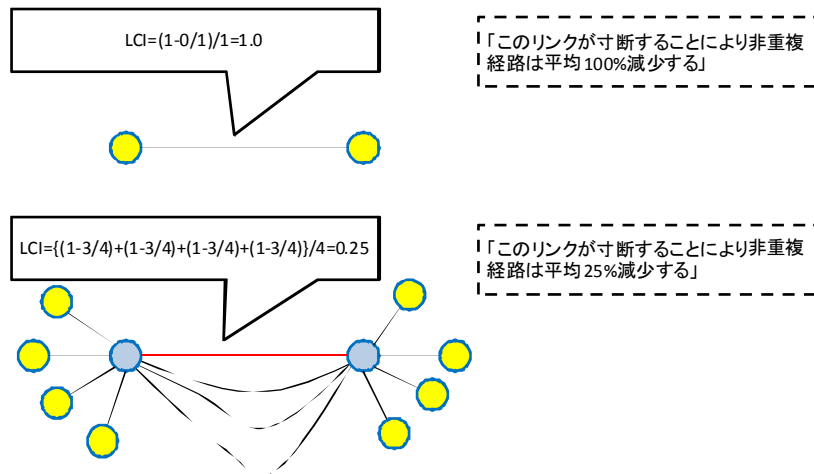


図 LCI の計算例

イ) 京都府緊急輸送ネットワークの分析

京都府内の緊急輸送ネットワークについて、京都府南部の広域防災拠点である山城総合運動公園と17の市町村拠点間のODペアを対象とし、LCIを算出し脆弱なリンクの抽出を行った。また、京都第二外環状道路の整備前と整備後のLCIをそれぞれ算出し、京都第二外環状道路の整備効果を脆弱箇所の解消の観点から分析した。

その結果、国道24号に一部脆弱区間があることが分かり、また、京都第二外環状道路の整備によって、上久世石見上里線及び伏見柳谷高槻線の脆弱性が解消されることが分かった。

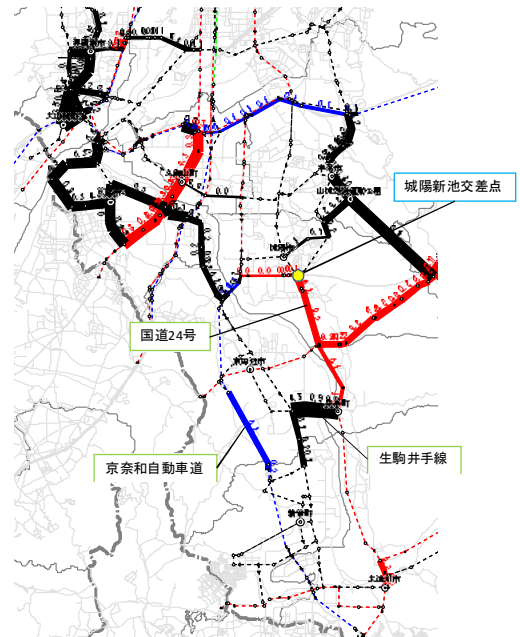
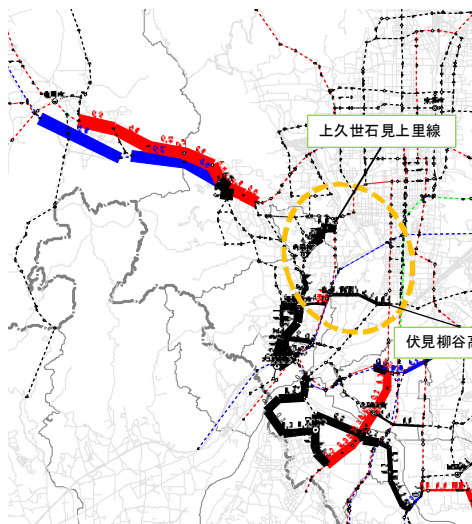


図 国道24号の脆弱性

LCI算出ケース1 (京都第二外環状道路未整備)



LCI算出ケース2 (京都第二外環状道路整備)

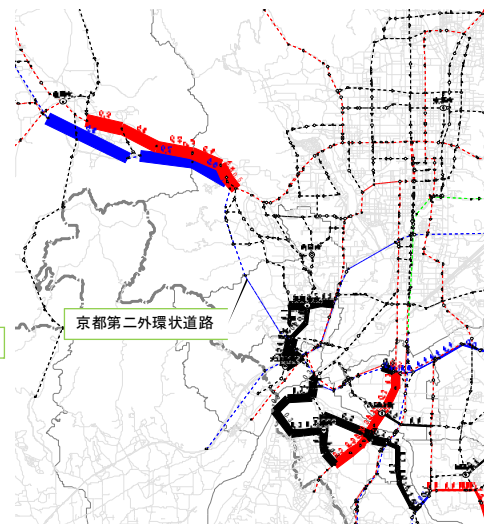


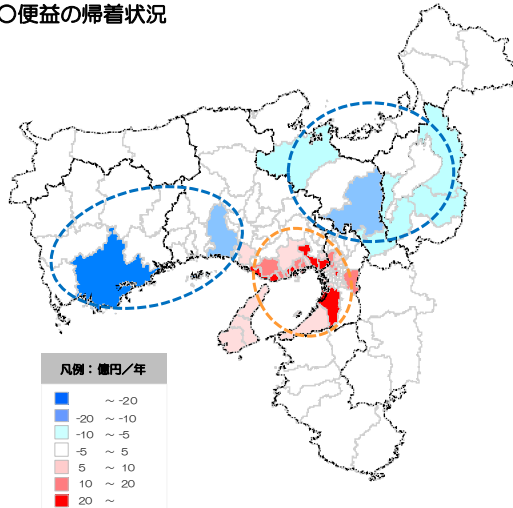
図 京都第二外環状道路の整備による効果

今後の課題としては、本年度の検討に引き続き、国、自治体等のニーズを踏まえた評価指標の検討と、それに応じたモデルの改良が望まれる。また、計算条件の設定に関して、本検討では評価に必要と考えられるネットワークについては、目視による判断により適宜追加しているが、評価の客観性、公平性を確保するためには、ネットワーク設定の基準、ルールを設けることが重要である。

イ) 本調査研究では、大阪市・神戸市といった関西の都市圏を「区」レベルで分析するために、居住地と勤務地を区別し所得分配を表現（通勤 OD を考慮）した RAEM-Light モデルを用いて、大阪湾岸道路西伸部の整備効果の検討を行った。

分析結果より、大阪湾岸道路西伸部の供用により、神戸市のみならず、大阪市・泉北地区（堺市等）といった大阪府側にも大きな効果が期待できることが分かった。

○便益の帰着状況



○一人当たり便益の帰着状況

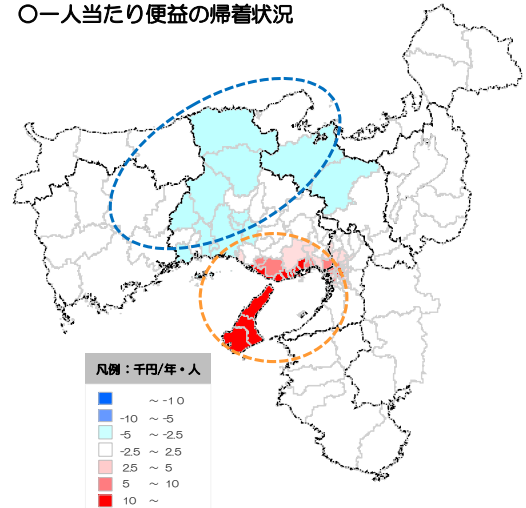


図 大阪湾岸道路西伸部 全線供用による帰着便益

今後の予定として、まず固定効果モデルによるパネルデータ分析では、今回の検討では、全製造業で分析を行ったが、業種によって企業立地の傾向は異なると考えられるため、業種別に細かく分析していく必要があると考えられる。また、データ入手上の制約はあるものの、市町村レベルよりもさらに細かいメッシュ単位での分析も今後検討が必要である。

RAEM-Light の検討では、より細かいゾーンでの分析精度を向上させ、精緻なアウトプットが可能となるように、モデルの改良を検討していく必要がある。

(2) 調査研究情報発信事業

①情報化月間シンポジウム「健康とまちづくり～日々の暮らしの舞台と健康の新たな関係を考える～」

- ・日時：平成25年11月12日（火）13時00分～16時15分
- ・場所：ホテルモントレ ラ・スール大阪

先進国では平均寿命80才が一般化しつつある。わが国は、高齢化率とともに高齢化のスピードにおいても、世界のトップランナーとして高齢社会を迎えている。しかしながら、病気や障害がなく、日常的に介護を必要としないで自立した生活ができる健康寿命と、平均寿命の間には約10歳のギャップが存在し、如何に健康寿命を延ばしていくかが大きな課題となっている。このため平成25年度は、「健康とまちづくり」をテーマとしてとりあげてシンポジウムを開催した。

シンポジウムの前半では、4名の方々から講演をいただいた。医学の領域から、まちづくり政策へ何を期待されているのか、換言すると、健康寿命を延ばすためにはどのような都市環境・生活環境を整えるべきかといった問題提議を踏まえて、生活と交通に関する実態調査のデータに基づいた高齢者の健康意識の分析や、スマートフォンを使った情報提供によって、健康的な行動の選択を支援するといった研究事例を紹介いただいた。最後に富山市長から、市民を健康にする都市を目指した、公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりの取組を紹介していただいた。後半のパネルディスカッションでは、健康に配慮した今後のまちづくりを実現していく手法について議論し、高齢社会における人々の幸せを支える地域づくりの取組みに資するシンポジウムとなった。

その結果、国、自治体、大学、民間企業等から82名の参加を賜り、非常に有意義なシンポジウムであったとの声を多数いただいた。

<プログラム>

講演Ⅰ 「まちづくり政策への医学領域からの期待」

講師：井上 茂氏（東京医科大学 主任教授）

講演Ⅱ 「生活実態と交通状況に関する調査からみえる高齢者の健康意識」

講師：安東 直紀氏（京都大学 安寧の都市ユニット特定准教授）

講演Ⅲ 「情報提供とまちづくりによる健康増進策」

講師：奥嶋 政嗣氏（徳島大学 准教授）

講演Ⅳ 「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり～市民を健康にする都市を目指して～」

講師：森 雅志氏（富山市長）

パネルディスカッション 「まちづくりと健康をデザインする」

コーディネーター：

土井 勉氏（京都大学 安寧の都市ユニット特定教授）

パネリスト：

- 井上 茂 氏（東京医科大学 主任教授）
- 安東 直紀 氏（京都大学 安寧の都市ユニット特定准教授）
- 奥嶋 政嗣 氏（徳島大学 准教授）
- 森 雅志 氏（富山市長）

（3）米谷・佐佐木基金事業

① 概要

米谷・佐佐木基金は、一般社団法人システム科学研究所の会長を務めた故 米谷栄二先生及び故 佐佐木綱先生の業績を広く顕彰するために、平成 17 年 3 月 25 日の第 4 回理事会に諮って承認可決されて創設された。

本基金の運用規程では、以下の 3 つの事業を掲げている。

- ・ 米谷・佐佐木先生の研究分野の発展に寄与した若手研究者及び技術者を表彰する「米谷・佐佐木賞」
- ・ 米谷・佐佐木先生の研究分野に関連した研究の発展に寄与する事業の支援
- ・ 米谷・佐佐木先生の遺志を実現するために必要な事業

創設九年目の平成 25 年度は第 9 回「米谷・佐佐木賞」の授賞事業を実施した。

② 「米谷・佐佐木賞」事業

1) 選考委員会のメンバー

- 飯田 恭敬（システム科学研究所 会長、京都大学名誉教授）・・・委員長
- 近藤 勝直（システム科学研究所 監事、流通科学大学名誉教授）
- 桑原 雅夫（東北大学 大学院 教授）
- 藤原 章正（広島大学 大学院 教授）
- 溝上 章志（熊本大学 大学院 教授）
- 浅井加寿彦（システム科学研究所 専務理事）

2) 公募内容

- ・ 対象者：交通工学及び交通計画に関する研究あるいは業務に従事する 40 歳代までの研究者および技術者
- ・ 対象部門
 - 《研究部門》：既に評価の高い研究成果を発表するとともに、現在斬新な研究プロジェクトを推進中の若手の研究者あるいは技術者
 - 《論文部門》：2010 年 9 月から 2013 年 8 月に取得した特に優れた学位論文
- ・ 奨学金：各部門 1 件 100 万円

3) 選考および授賞式のスケジュール

- ・ 2013年8月・・・公募の開始（HPの掲載、IPメールでの発信）
- ・ 2013年9月・・・公募の〆切（9月13日）
- ・ 2013年10月・・・選考会の開催
- ・ 2013年11月・・・第9回米谷・佐佐木賞の授賞式

4) 選考結果

《研究部門：1名》

山田 忠史 京都大学大学院 工学研究科 准教授

研究題目；「サプライチェーンネットワークとの相互作用を考慮した貨物交通ネットワークの最適設計」

《学位論文部門：1名》

和田健太郎 東北大学大学院 情報科学研究科 特任助教

学位論文題目；「交通需要予測を必要としない自律分散型の動的混雑管理法：ネットワーク通行権取引制度とそのインプリメンテーション・メカニズム」

5) 授賞式

- ◇ 日時：平成25年11月29日（金） 15：00～19：00
- ◇ 場所：ホテル日航プリンセス京都 京都市下京区烏丸高辻東入ル
- ◇ 授賞式
 - ・ 開会
 - ・ 選考委員挨拶
 - ・ 選考結果発表
 - ・ 受賞者の表彰
 - ・ 受賞者（研究部門）の挨拶
 - ・ 受賞者（学位論文部門）の挨拶と受賞講演
 - ・ 研究報告講演（山本俊行：第8回・米谷佐佐木賞 研究部門受賞者）
 - ・ 授賞パーティー
 - ・ 閉会

(4) 受託調査研究

主要な受託調査を下記に示す。

<地域・都市政策及び地域活性化政策関係>

近畿圏広域地方計画推進資料作成業務	近畿地方整備局
市街地整備事業等関連データ整理作業	近畿地方整備局
都市整備事業関連データ整理作業	近畿地方整備局
山城青谷駅周辺整備基本計画作成業務委託	城陽市
長浜市観光統計調査業務	長浜市

<交通政策関係>

近畿圏における鉄道ネットワーク等の現状把握と今後の方向性に関する調査	国土交通省鉄道局
近畿圏における鉄道ネットワーク等の今後の方向性の検討に関する調査	国土交通省鉄道局
常時観測データを用いた道路交通特性分析業務	国土技術政策総合研究所
近畿管内道路交通データ分析業務	近畿地方整備局
国道42号田辺市域他交通量調査等業務	近畿地方整備局紀南河川国道事務所
京都府南部地域道路網整備効果調査業務	近畿地方整備局京都国道事務所
北近畿地域道路網調査業務	近畿地方整備局福知山河川国道事務所
兵庫地域道路網調査業務	近畿地方整備局兵庫国道事務所
交通状況調査業務	近畿地方整備局豊岡河川国道事務所
大阪東部地域道路ネットワーク効果分析他業務	近畿地方整備局浪速国道事務所
近畿圏における地域公共交通等の現状と課題に関する調査等業務	近畿運輸局
地域公共交通に係る指標・メルクマールの検討等業務	近畿運輸局
「スローライフ京都」大作戦推進業務(その1)及び(その2)	京都市
「歩くまち・京都」憲章の普及啓発及び「歩くまち・京都」総合交通戦略の推進業務	京都市
新たなバス輸送サービスに係る調査検討業務	京都市交通局
バス事業に係る調査・研究業務	京都市交通局
平成26年3月 新しい路線・ダイヤ編成に向けた準備作業に係る検討業務	京都市交通局
小金塚地域公共交通導入検討業務	京都市山科区役所
山城地域におけるモビリティ・マネジメントによる公共交通利用促進業務	京都府
湖東圏域地域公共交通活性化・再生総合事業調査等委託業務	湖東圏域公共交通活性化協議会
湖東圏域地域公共交通確保維持改善事業調査等業務委託	湖東圏域公共交通活性化協議会
近江大橋無料化交通量予測・対策検討業務	滋賀県
青谷地区道路網見直し検討業務委託	城陽市
神戸複合産業団地における共同バス運行に関する調査業務	神戸市
地下鉄海岸線に係る基礎調査業務	神戸市交通局
次世代交通管制に係る情報収集提供検討補助業務	阪神高速技研(株)
阪神高速道路の将来交通量推計手法に関する検討業務	阪神高速道路(株)
信頼性等を考慮した都市高速道路の便益検討業務	阪神高速道路(株)
画像解析による交通量調査活用に向けたシステム開発業務	阪神高速技研(株)
しまなみ自転車利用実態調査業務	本州四国連絡高速道路(株)
本四道路ETC走行データ集計業務	本州四国連絡高速道路(株)
本四道路の交通動向に関する調査・検討業務	本州四国連絡高速道路(株)
VICS情報提供の社会経済効果評価と次世代VICSサービスによる効果拡大評価	(一財)道路交通情報通信システムセンター
祇園祭山鉾行事現状ならびに日程変更に伴う交通影響等検討業務	(公財)祇園祭山鉾連合会
寝屋川市都市計画道路見直しに係る将来交通需要推計の委託	K社
大阪府地域公共交通戦略策定にかかる検討業務	C社

3. 会 議

・平成25年度 第1回 理事会

日 時 平成25年5月28日（火）10:00～10:45
場 所 ホテル日航プリンセス京都
出 席 理事15名中出席 9名
 監事 2名中出席 2名
議 事 通常総会に附議すべき事項の検討

・平成25年度 通常社員総会

日 時 平成25年5月28日（火）10:45～12:00
場 所 ホテル日航プリンセス京都
出 席 会員35名中出席30名（内、表決委任者19名）
議 事 第一号議案 平成24年度事業報告に関する事項
 第二号議案 平成24年度収支決算に関する事項
 第三号議案 平成25年度事業計画に関する事項
 第四号議案 平成25年度収支予算に関する事項
 第五号議案 借入限度額に関する事項
 第六号議案 役員交代に関する事項
 第七号議案 米谷・佐佐木基金の平成24年度事業報告に関する事項
 第八号議案 米谷・佐佐木基金の平成25年度収支予算に関する事項
 第九号議案 その他

以上九議案について原案どおり承認可決した。

・平成25年度 第2回 理事会

日 時 平成26年3月26日（火）14:00～15:30
場 所 （一社）システム科学研究所会議室
出 席 理事15名中出席11名（内、表決委任者4名）
 監事 2名中出席 2名
議 事 第一号議案 平成26年度事業計画に関する事項
 第二号議案 平成26年度収支予算に関する事項
 第三号議案 借入限度額に関する事項
 第四号議案 平成26年度米谷・佐佐木基金の収支予算に関する事項
 第五号議案 入退会に関する事項
 第六号議案 その他

以上六議案について原案どおり承認可決した。

・ 会 員

会員は 法人5名 個人33名である。

会 員 名 簿

(平成26年4月1日現在)

種 別	会 員 名	代 表 者	備 考
法 人	一般財団法人 アジア太平洋研究所	代表理事 岩城 吉信	
	公益財団法人 関西交通経済研究センター	会 長 野村 明雄	
	一般財団法人 関西情報センター	会 長 森下 俊三	
	京都電子計算株式会社	代表取締役社長 小崎 寛	
	三菱東京UFJ銀行 京都支店	支店長 苅谷 聡	

種 別	会 員 氏 名	現 職
個 人	浅井加寿彦	一般社団法人システム科学研究所 専務理事
	朝倉康夫	東京工業大学教授
	天野光三	京都大学名誉教授
	飯田恭敬	京都大学名誉教授
	位高光司	日新電機株式会社 顧問
	石倉理有	株式会社堀場製作所 開発本部エンジンセンター-自動車用マテイクス設計部製品技術担当マネージャー
	井上矩之	福山大学教授
	岩本康男	公益財団法人 都市活力研究所 顧問
	上村正美	阪急電鉄株式会社 都市交通事業本部都市交通計画部部長
	大久保昌一	大阪大学名誉教授
	大西英雄	
	大淵克己	元 オムロン株式会社 SSB品質環境部部長
	大矢正樹	
	男山倫夫	大阪外環状鉄道株式会社 代表取締役社長
	川崎雅史	京都大学教授
	久保田隆三	春日製紙工業株式会社 代表取締役会長
	熊本博光	京都大学名誉教授
	小山隆	弥生コンサルタンツ株式会社 代表取締役
	近藤勝直	流通科学大学名誉教授
	坂野登	京都大学名誉教授
	坂本破魔雄	元 株式会社管制オムテス 代表取締役
	塚口博司	立命館大学教授
	土井勉	京都大学教授
	並川滋	元 財団法人阪神高速道路管理技術センター 理事長
	西井和夫	流通科学大学教授
	野村康彦	元 株式会社日建設計シビル 代表取締役会長
	林勝巳	株式会社エイト日本技術開発 取締役 常務執行役員
	藤井正和	株式会社高速道路開発 代表取締役社長
	蓮花一己	帝塚山大学教授
	卷上安爾	立命館大学名誉教授
	松尾武夫	株式会社ハイテクノ 取締役
	森津秀夫	流通科学大学教授
	蟲明眞一郎*	環境創造 代表取締役

*印は顧問

・役員

理事 15名 監事 2名である。

役員名簿

(平成26年4月1日現在)

理事

役職	氏名	現職
会長*	飯田 恭敬	京都大学名誉教授
副会長*	位高 光司	日新電機株式会社 顧問
専務理事*	浅井 加寿彦	東京工業大学教授
理事	朝倉 康夫	元 オムロン株式会社 SSB品質環境部部長
	大淵 克己	大阪外環状鉄道株式会社 代表取締役社長
	男山 倫夫	京都大学教授
	川崎 雅史	京都大学名誉教授
	熊本 博光	一般財団法人 関西情報センター 専務理事
	田中 行男	立命館大学教授
	塚口 博司	京都大学教授
	土井 勉	流通科学大学教授
	西井 和夫	元 株式会社日建設計シビル 代表取締役会長
	野村 康彦	帝塚山大学教授
	蓮花 一己	流通科学大学教授
	森津 秀夫	

*印は代表理事

監事

役職	氏名	現職
監事	近藤 勝直	流通科学大学名誉教授
	並川 滋	元 財団法人阪神高速道路管理技術センター 理事長